

横浜国立大学は、1つのキャンパスに、教育学部、経済学部、経営学部、理工学部、都市科学部があり、広い視野から研究と教育を行っています。今年のYY講座では、2025年に訪れる「超高齢社会」を見据え、多くの高齢者と共存する新しい未来について、各専門分野の教員が分かり易く講義します。

現在の高校生が、大学を卒業し、社会に出たころの日本社会は、どのような姿なのでしょう。興味を持った高校生の方は、ぜひ参加して知見を広げてください。強い好奇心や探究心はきっとあなたを成長させてくれるでしょう。

今年も引き続き、社会への貢献を重視する読売新聞横浜支局との共催とさせていただきます。新しく刺激的な「知」を皆様へお届けします。



横浜国立大学長  
長谷部 勇一



読売新聞横浜支局長  
横田 博行

日本は、かつて世界のどの国も経験したことのない、急激な人口減少と高齢化に直面しようとしています。それは私たちの暮らしにどんな変化をもたらすのか。当たり前と思われていた住民サービスは行き詰まり、社会は衰退に向かうのか――いわゆる「2025年問題」とその先の未来は、私たち新聞社にとって、いま最も重要な取材テーマの一つとなっています。

今年で9年目を迎えた今回のYY講座は、まさにこの問題にさまざまな角度から切り込みます。いたずらに悲観論に走るのではなく、「若い」というものの本質を正しく理解し、来たるべき変化に社会としてどんな備えができるのか、横浜国立大学の研究成果を基に、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。



# 2025年 「超高齢社会」の未来を考える

参加費は無料です。たくさんの方の受講をお待ちしております。

- 開催日時 7月27日(金)・8月24日(金) 18:00~20:00(受付開始 17:30~)  
9月29日(土) 17:00~19:00(受付開始 16:30~)
- 会場 横浜国立大学 教育文化ホール 大集会室
- 受講対象 高校生(高校生以外の方もお申込み可)
- 受講定員 200名
- 受付期間 2018年5月1日(火)~9月20日(木) ※先着順、定員に達し次第受付を終了いたします。
- 申込方法 本学ウェブサイトからお申込下さい。

スマート  
フォンからの  
申込はこちら



「横浜国立大学トップページ」→「産学・社会連携」→「生涯学習」→「公開講座のご案内」→「2025年「超高齢社会」の未来を考える」

[http://www.ynu.ac.jp/society/lifelong/public\\_lecture/index.php](http://www.ynu.ac.jp/society/lifelong/public_lecture/index.php)

その他、FAX・郵送にてお申し込みができます。(お電話でのお申し込みは受け付けておりません。)

下記項目を記載の上お申込ください。

お名前・フリガナ・E-mailアドレス(お持ちの場合)・性別・年齢・ご住所・電話番号・FAX番号・ご職業・次年度以降の本学公開講座案内の送付希望の有無

お申込をいただいた方には、ご案内を送付いたします。

※お知らせいただいた個人情報、公開講座受講にあたって必要な連絡、今後の公開講座案内等の送付及び、今後の公開講座運営上の参考にするための統計資料作成以外には利用いたしません。

公開講座の動画配信中!

<https://www.youtube.com/watch?v=blyil4cXDhk>

※本講座も動画撮影予定です。



## 横浜国立大学常盤台キャンパスへの交通案内



- 横浜市営地下鉄線 ミツ沢上町駅下車→徒歩約16分で大学正門へ
- 相模鉄道線 和田町駅下車→徒歩約20分で大学南門・南通用門へ
- JR等 横浜駅下車→横浜駅西口より下記のバスに乗り→大学各門へ

【横浜駅西口からバス】  
※キャンパス内へのバスの乗り入れは平日のみ。詳細はwww.ynu.ac.jp/access/index.html

### ●横浜市営バス

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑪	202系統 循環外回り	横浜新道または岡沢町	南通用門・正門
⑫	201系統 循環内回り 急行329系統 横浜駅西口	国大中央または大学会館前 岡沢町または横浜新道	キャンパス内 ※平日のみ 正門・南通用門

### ●相鉄バス

乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑩	浜10系統 横浜駅西口 浜5系統 交通裁判所経由 横浜駅西口	国大中央または大学会館前 岡沢町	キャンパス内 ※平日のみ 正門

### ●神奈中バス

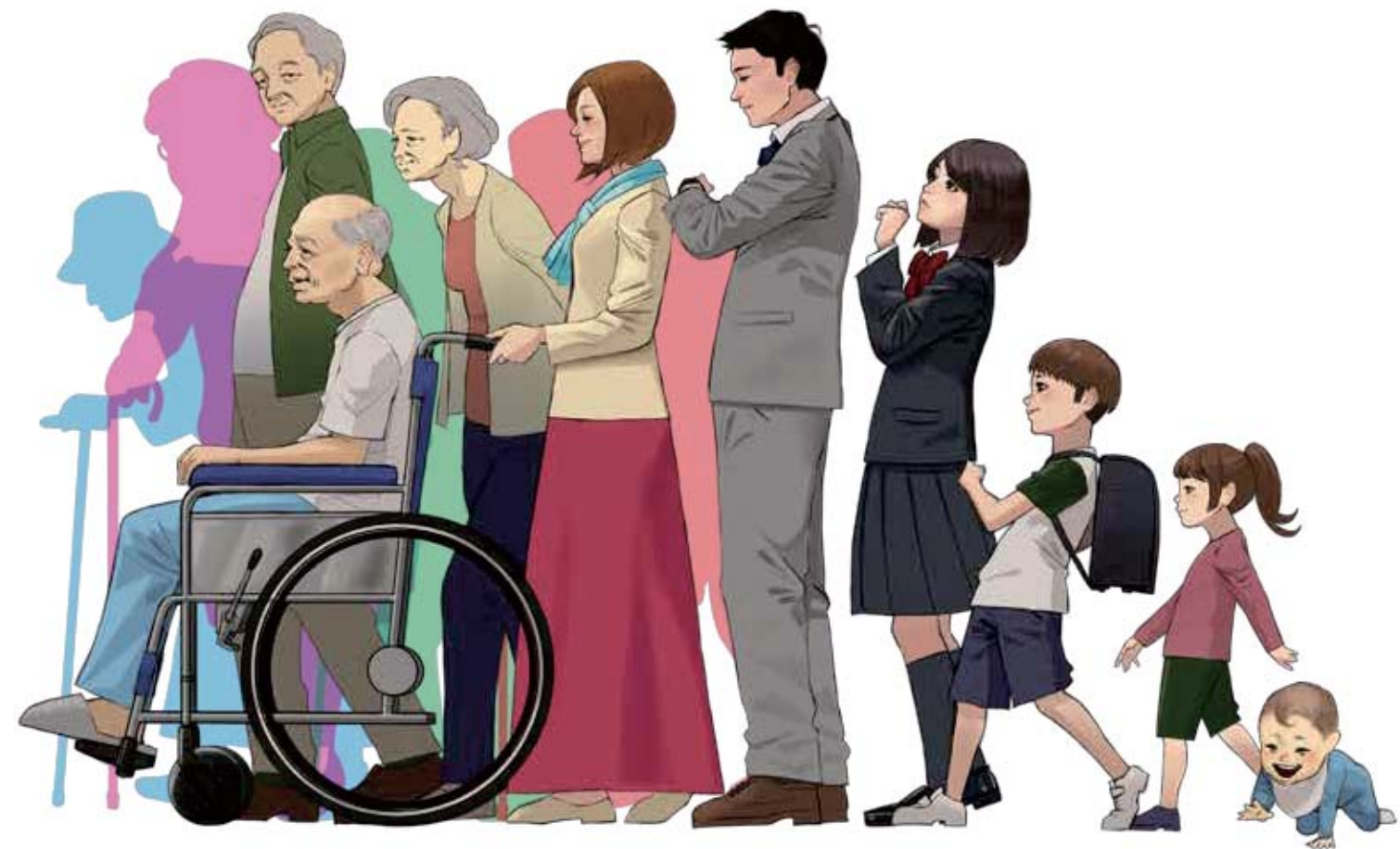
乗場	行き先	下車停留所	大学への入口
⑬	01系統 中山駅	岡沢町または横浜新道	正門・南通用門

YNU 横浜国立大学  
YOKOHAMA National University

研究・学術情報部  
産学・地域連携課 地域連携係

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5  
TEL:045-339-4455 FAX:045-339-3057  
E-mail:sangaku.chiiki@ynu.ac.jp

2017-6-22-4000



主催：横浜国立大学公開講座委員会  
共催：読売新聞横浜支局

表紙イラスト：武田 康平



# 2025年「超高齢社会」の未来を考える

2025年には、団塊の世代が後期高齢者層(75歳以上)に全入します。この7年後の社会では、高齢者が3人にひとりとなり、介護の必要性の高い後期高齢者も18%となりますが、これはちょうど現在の高校生が大学や大学院を卒業・修了し、社会に出たばかりの日本社会の姿です。この時代を予測し、多くの高齢者と共存する新しい未来を共に考えましょう。

- 日 程: 2018年7月27日(金)・8月24日(金)・9月29日(土)  
午後6時00分～午後8時00分(9月29日(土)のみ午後5時00分～午後7時00分)
- 場 所: 横浜国立大学 教育文化ホール 大集会室 ●定 員: 200名
- 受付期間: 2018年5月1日(火)～9月20日(木) ●対 象: 高校生(高校生以外の方もお申込み可)

## 第1回 7月27日(金)

### 超高齢社会の不都合?な真実

18:00～18:10

本講座の趣旨説明をします。

2025年の日本は、どの国家も誰も経験したことのない超高齢社会です。この近い将来、今の高校生が社会人として活躍し始め新しい日本社会を作っていく上で、予測されている不都合状況をとりぞき、今よりもっと過ごしやすく不安の無い社会を皆で目指すための共通のビジョンが求められています。

第1回でひと・第2回で技術と社会・第3回で暮らしについて、理解を深めたいと思います。



横浜国立大学 大学院  
都市イノベーション研究院  
教授  
大原 一興

### 視覚特性の加齢変化:

#### ～老化によって変わる事・変わらない事～

18:10～19:00

加齢とともに視覚の特性は変化します。例えば老眼は、本を読んだりスマホを見たりするときに異変に気づきます。それ以外にも、加齢に伴い眼のレンズである水晶体の透過率は下がり、瞳孔は開きにくくなり、暗いところで見えにくくなるが増えてきます。特に青色の光は、水晶体の黄変化によって暗く見えます。

一方、色の見え方ができるだけ変わらないようにする脳の補償作用も存在します。そのおかげで、年を経ても、健康であれば白いものは白く見ることができるのです。



横浜国立大学 大学院  
環境情報研究院  
教授  
岡嶋 克典

### 認知症とはどのような状態なのか

19:05～19:55

認知症というと、物忘れが激しくなる、つまり記憶力が低下するという印象があると思います。認知症において記憶力の低下は、重要な指標の一つではありますが、その他にも様々な人間の能力が関係し、そして環境や対人関係に大きな影響を受ける心の状態とも相互作用しながら、認知症の方の状態を形作っていきます。そのため今回は、皆さんにも関係するストレスと人間の能力を司る認知機能の両面から“認知症”について紹介できればと思います。



横浜国立大学  
障がい学生支援室(保健管理センター)  
講師  
福榮 太郎

## 第2回 8月24日(金)

### 自立生活を支援する福祉機器

18:00～18:50

日本において、高齢者(65才以上)の人口は、2025年に人口の約30%、2035年には約33%になり、3人に一人が高齢者になると総務省統計局から報告されています。このころには現役の労働者2人以下で高齢者一人を支えることになります。したがって、高齢者が自立することが将来の日本にとって重要な課題です。

また、一人暮らしの高齢者は、2015年で590万人ほどでしたが、2025年には約700万人になると予想されています。そこで、本講座では、高齢者のための福祉、介護機器、高齢者が自立して生活するため自らが使用できる機器について紹介します。



横浜国立大学 大学院  
工学研究院  
教授  
高田 一

### 人生100年時代の人生設計・社会設計

19:00～19:50

現在11歳の若者の半数は、107歳まで生きるとの予想があります。人生100年時代ということは、平均で100歳。みなさんは110歳、さらには、それ以上長生きするかもしれません。そうした社会で、あなたは何歳まで、どのように働きたいですか。年金制度はどうなっているのでしょうか。人生の最期は、医療や介護制度に支えられながら、幸せに迎えられるのでしょうか。

この講座では、まず、それぞれの100年間の人生を考えます。そして、そうした人生を支える法制度がどうなっているとよいか、みんなで考えましょう。



横浜国立大学 大学院  
国際社会科学研究院  
教授  
関 ふ佐子

## 第3回 9月29日(土)

### 超高齢社会を生きる若者たちへ

17:00～17:50

超高齢化という変化に直面して、年金、高齢者医療、介護等、人生の締めくくりにまつわる問題に意識を集中しがちですが、超高齢社会を豊かに生きるとは、老後の生活の安定を求めていくことを意味するのでしょうか。そうではありません。

みなさんはこれまでの社会が前提にしているより長く、多様な人生を生きることになります。生活の豊かさへの第一歩は、みなさん自身が、働くこと、結婚、育児等人生全体を設計し直すことから始まります。個人・家族・コミュニティの生活の豊かさの視点から、今何が起きているのか、これからどのような選択をしていくのか考えてみましょう。



元 横浜国立大学  
教育人間科学部  
教授  
工藤 由貴子

### 新しい共生の住まい・

#### ペットと共生する高齢者の生活

18:00～18:50

近年、犬や猫などの動物が私たちと共に生活するようになり、そのような動物に対する呼び方も、「ペット」から「コンパニオン・アニマル」へと変わってきています。この変化は、何よりも私たちと動物の心理的な距離が近くなったことに原因があるようです。動物と長い時間、密接にかかわることにより、様々な恩恵を得て、もはや日々の生活に欠くことができない存在であると実感している人も多いでしょう。この講座では、高齢者がペットと生活することのメリットなどを中心に、高齢期の生活スタイルとしてのペットとの生活についてお話しします。



横浜国立大学 大学院  
環境情報研究院  
教授  
安藤 孝敏